小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表　　（令和４年度）

法人名	株式会社 美空	代表者	津野　克久
事業所名	小規模多機能ホーム みそら山田	管理者	津野　優子

法人・事業所の特徴	株式会社美空は、高知県南国市・香美市に高齢者介護の事業を展開しています。 現在、地域通所介護事業所を３軒、小規模多機能型介護事業所を２軒、居宅介護支援事業所を１軒運営しております。地域に根差した介護を心掛け、利用者様、ご家族様の思いに寄り添ったケアを提供できるよう、日々取り組んでおります。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民･地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援ｾﾝﾀｰ	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	１人	人	１人	１人	１人	人	人	12 人	人	16 人

項　　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
Ａ．事業所自己評価の確認	１.初めて利用される方への対応は、基本情報を全職員が把握した上で対応していく。知りえた情報は、全員が閲覧している申し送りノートに記載して情報共有を徹底していく。 ２.各職員、利用者情報の閲覧を積極的に行うようにする。それぞれの利用者の「短期目標」「長期目標」を把握しケアに努める。 ３.各職員が利用者の支援内容を把握し、申し送りノートから最新の情報を得た状態でケアを実施する。対応方法が随時変化することもあるため、情報交換、共有を徹底する。 ４.様々な地域資源があるが、知らないものが多い。少しずつ勉強していく。本人の自宅での生活や家族関係、人間関係を深く知るようにする。 ５.地域の資源を利用してケアに取り入れる。事前に計画を立てて行動してみる。 ６.コロナの状況にもよるが、事業所の行事や催しに地域やご家族を招き、関りの機会を増やしたい。 ７.運営推進会議や普段のかかわりの中でご家族や地域の方々からの意見や感想をいただき反映させる。職員も改	1.管理者が作成した新規利用者の基本情報に全員が目を通していた。業務中に自身が知りえた情報は全員と共有し、必要事項は申し送りノートに記載した。勤務日には必ず申し送りノートを確認している。 ２.個人記録を記載する際には、必ず目標を確認する。 ３.書面からの情報だけでなく、実際ケアする際に利用者の表情や様子を観察して気持ちをくみとるよう意識して行った。 ４.利用者本人のこれまでの生活状況や家族、近隣、地域との関係性について､情報収集することを個々に努めた。 ５.コロナ禍であり、最小限の屋外活動への取り組みを計画的に実施することができた。 ６.行事やレクレーションの開催時に地域やご家族を招くことができる状況ではなく、取り組めていない。 ７.送迎や訪問など社外での業務時に、ご家族や近隣住民の意見等をいただけるように､挨拶や交流に心がけている。	全員の職員で取り組めた結果であることはわかったが、質問内容が理解しづらく、回答できない項目が多かった。実際に取り組めたかどうか、目に見えるものではないので、評価することが難しいと感じました。 年に１回、自己評価、外部評価を実施することにより、事業所自体、職員一人ひとりが見直して、確認する、改善したり意識するための良い機会となっている。事業所のこの取り組みや努力を行うことだけにとどまらず、多くの方に知ってもらい、行政側も事業所に対して評価や助言などをして、業務改善やレベルアップなどに関わるべきである。	１．自身の思い込みで行動しない。常に最新の情報を確認する。些細なことでも申し送り、情報共有する事。 ２．各利用者の大まかなゴールやどうなりたいかを把握する事で、それに向けての関り方を統一して実践することができる。 ３．できる限り利用者に寄り添い、気持ちを察してケアしていく。(マンパワー不足や時間に追われて業務をこなす状況の中でも意識していく) ４．香美市の中で活用できる資源、場所を把握し、今後のサービスの中で取り入れていく。 ５．地域の資源を調べる。行事計画を立て活用する。 ６．引き続きコロナ禍であり、積極的な外部との関わりは難しいが、できる範囲で行う。電話や書面などの方法でも情報交換、連携を行う。 ７．地域とのかかわりを少しでも持ち、協働した取り組みを行うために、行事や会合へ参加する。

	善が必要な点に気が付いたら、意見を出すようにする。 ８.ディスカッション形式の社内研修を行い、個々の意見を出し合いながら、レベルアップを図る。 ９.個人情報が書かれた書類やデータの管理を徹底し、取り扱いに注意する。	８.社内研修でディスカッションに時間をもうけたが特定の職員しか意見を出さないことが多かった。時間的にはまだまだ不足。 ９.自分が使ったデータや書類は責任をもって管理し使用後は元に戻すことで紛失や漏洩を防止した。ブログにアップする際にも、写真のチェックを十分行い作成した。		８．ディスカッション形式の研修を増やし、意見交換に慣れていく。 ９．拘束につながる言葉使い「スピーチロック」の見直し、意識付けを行う。
Ｂ．事業所のしつらえ・環境	ゴミ拾いを徹底し、事業所の環境整備に努める	毎日、朝夕の施設内外の掃除を徹底した。季節ごとの飾りつけや模様替え、利用者に応じた家具の配置を行った。玄関扉は天候不良時以外は常にオープンにしている。	施設内はいつも掃除が行き届き、清潔な印象。駐車場や通路にもゴミが落ちていることはなかった。 玄関の外から声をかけたときになかなか気が付いてもらえないことがあった。母屋の玄関に呼び鈴が設置されていない。	「清潔な環境、居心地の良い空間を維持する」 引き続き、施設内外の環境整備を徹底する。来客時に早急に対応できるよう母屋玄関の呼び鈴設置を検討していく。
Ｃ．事業所と地域のかかわり	地域の会合や行事に参加する	コロナ禍の為、地域の行事や会合が殆ど行われていない。	コロナが続いているので、行事や会合に参加できず、取り組みができないことは仕方ないと思う。 職員さんはいつも皆明るく挨拶していると思う。自分にとってはとても相談しやすくありがたい場所です。	「地域の会合や行事に参加する」 今後行われる行事や会合にはできる限り参加していく。
Ｄ．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者とともに地域、近隣に外出し、交流を試みる	利用者と一緒に近所を散歩することはできるが、地域住民と交流を図ることはできなかった。	C と同様にコロナ禍で取り組みができないことは仕方ない。 みそらのブログや毎月のフォトレターで、外出した様子を知ることができている。 花見や遠足などいろいろ連れて行ってくれるので、皆嬉しいと思います。	「利用者とともに地域、近隣に外出し、交流を試みる」 コロナの感染状況に注意しながら、出来るだけ外出したり、屋外活動を試みる。その中で外部との交流も意識していく。
Ｅ．運営推進会議を活かした取組み	多様な職種、立場から意見や助言をいただき、運営に反映させる	ご家族からはサービス内容や介助方法への具体的な感想や助言をいただくことができた。 事故やヒヤリハットへの対策や、訓練に対しての助言をいただき、改善につなげる事ができた。 コロナ感染予防のため、利用者が会へ出席することがほとんどできていなかった。	以前、会に出席した時は説明がわかりやすかったです。	「多様な職種、立場から意見や助言をいただき、運営に反映させる」 利用者、ご家族の出席が難しいことが多いが、出来るだけ多くの方に参加していただけるよう声を掛ける。 今後も意見や助言が多く集まる会となるよう、運営状況や取り組みの説明をわかりやすく行うよう努める。

Ｆ．事業所の 防災・災害対策	利用者スタッフ共に、災害時の緊急連絡網を見直し作成しておく	災害発生時の緊急連絡網を見直し、最新版を作成した。 利用者の緊急時対応ファイルの見直しも実施し､情報を整えることができた。 5 月、11 月には防火訓練を実施。 11 月には地域の災害避難訓練に一部の職員と利用者が参加したが、事業所全体で地域の災害時避難場所に避難訓練することはできていない。	地域の訓練にもっと大人数で参加出来たらいいと思う。 事業所の訓練の際に、地域の方に参加してもらうのもいいと思う。 食料や水の備蓄、物品の準備ができているのがわかった。	「災害想定の避難訓練を定期的に実施していく」 常に、利用者、スタッフの人員数や状況が変化していくので、季節や時間帯を変えて訓練を重ねることで、災害時に慌てず対応できるようにしていきたい。

作成日　令和 4 年 11 月 18 日